短編小説‘Cat in the Rain’についての大学生の解釈の分析

杉村　寛子*　　工藤　多恵**

An Analysis of the Students’ Interpretations of ‘Cat in the Rain’

Hiroko SUGIMURA*　　Tae KUDO**

Abstract

This study explores how Japanese university students majoring in science perceive, interpret, and evaluate a literary text. These students have been reading science content-based articles and have been engaged in a variety of reading skills such as scanning and skimming. However, reading literary texts as opposed to science texts requires additional interpretive skills since meaning is not always explicit in many stories; also, readers must rely on their background knowledge and experiences to understand the context. In this pilot lesson, a total of 73 students was assigned a literary work and had to then answer inferential and evaluative questions as well as translate some conversations in the story. An analysis of their answers and translations was conducted to see how these students examined the text to further investigate how reading literature might help students develop more intensive reading skills.

１．はじめに

かつて文豪ゲーテは‘Wer fremde Sprachen nicht kennt, weiβ nichts von seiner eigenen.’（「外国語をわからない者は母語を知らない者だ」の意）と言った。大津はこのゲーテのことばを引用し，外国語の習得における母語の重要性を主張しつつ，英語教育においてひときわ「オーラル・コミュニケーション」が脚光を浴びるようになって以来，教材として教室に導入される英文が「比較的構造の単純なものに限定」され，「語彙も（構造の面でも，意味の面でも）単純なものが大部分を占める」ようになったと指摘する（大津, 2008: 31)。確かに語彙も文の構造も平易であれば，ほとんど母語を意識せずに，英語を英語のまま理解することも可能となり，これも言語習得を促す要因の一つと考えられるが，逆にこの「平易」が学習者をしてことばそのものを吟味する機会を失わせしめているという問題提起は注目に値する。

この警鐘は，初等教育における英語教育の本格的な導入を眼前に鳴らされたものであるが，これを大学における英語教育という文脈に置き換えると，形を変えて同じようなことが生じていると言える。勿論，高等教育機関で使用される教材では，難解な語彙や複雑な構造の文は含まれる

*　工学部英語教育センター
**　関西学院大学理工学部

が，時に日常の言語活動においても見られる，誤解を生じさせるような両義性ないし多義性に富んだ表現は避けられ，読み手にとって明示的な表現が好まれているように思われる。その理由の一つとして，英語教育において専門に特化した教科書が使用されるようになったことが挙げられ，このような教材では比喩表現などが多く含まれているとは考えにくい。またテーマが専門的な内容に関係するか否かに関わらず，一般に情報を提供する型のテクストでは，意味上の曖昧はほとんど見られない。

このような現状を背景に，両義性・多義性に富むテクストである短編小説を教材とし，ことばの意識づけを図る機会を，リーディングの授業を通して試みることにした。ただし，本稿はこの授業から得た結果を分析・考察するものではなく，授業に先立ち課した事前課題の結果に焦点を当て，英語教育を通してことばという事象に係る大学生の態度の一端を示し，そこに今見える課題を論ずるものである。

2．先行研究

諸外国を含め，いつしか文学テクストは言語学習にほとんど資することはないと考えられるようになり（MacKay, 1982），日本では英語教育で用いられる教材として文学テクストがその存在感を失い始めて久しい。また学習者にとって良い教材かという視点で見た場合，日本語とはまったく異なるしくみの言語で書かれたものを読むということに加えて，文化・歴史やそれらに基づく価値観が日本とは異なる世界で生み出された文学テクストを読むことは，読者にかなり大きな負荷を掛けることは明らかである（MacKay, 1982; Lazar, 1993）。さらに文学テクストでは言語の用法に逸脱が見られたり（Leech, 1973），隠喩のような修辞的工夫が凝らされたりしているため（Su, 2010），テクスト全体をふり返って意味を理解しようとする態度や，文学的な感覚が必要とされ，もともと個人の持つ（日本語であれ，外国語であれ）読む能力にも左右される面がある。このように内容的にも，言語的にも，文学テクストは言語の学びには適さず，学習者の必要性にも合っていないという見方から，英語教育では文学テクストが避けられるようになっていったのであろう。

逆に，文学テクストに触れるからこそ異文化への理解，感覚や寛容さが涵養される機会が得られる場合もある。（MacKay, 1982）。また比喩や修辞に富んだテクストを読む過程で，ことばに注意を向ける機会を得，物語の解釈から創作などのより高次の言語の運用能力につながる可能性もある（Frye, 1964; MacKay, 1982; Preston, 1982; Zyngier & Fialho, 2010）。例えばOsterは小説における語りの視点の問題を取り上げ，誰の目を通して語られているのかをポイントにESLの学生に短編小説を分析させ，さらに別の登場人物の視点から物語を書き変えさせる創作を課題として試みている（Oster, 1989）。

このように認知作用を刺激するような形で文学テクストを活用することによって，昨今日本の教育の鍵となっている思考力，なかでもより高次の思考力であるクリティカルシンキングを涵養することができるという主張がある。文学テクストを読むとき，読者は自ら抱いた印象をテクストのなかに求めて検討し，さらに生まれた新たな印象をまたテクストに還って検討するという行為を円環状にくり返しており，そのくり返しを通して，最後に解釈に至ると言われている（Spitzer, 1948; Leech & Short, 2007）。さらにRosenblattは読者とテクストとの「有機的な」関係に注目し，読者が文学テクストに向かうとき，そのとき読者の持つ知識や経験も働き，解釈に影響を与えていると述べている（Rosenblatt, 1995）。

上記のような思考の過程には必ず母語が介在しており，特に母語以外の言語に触れることで，改めて空気のような存在であった母語のことも意識し，「ことばへの気づき」が芽生えるきっかけとなると，大津は**図 1** を示し述べ，外国語学習における母語の果たす役割に注目している（大津，2008）。そこで本調査では，外国語と母語の双方向の影響を見るために，翻訳を取り入れることとした。

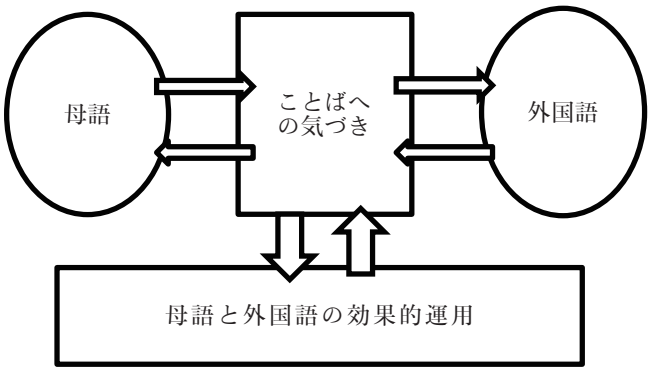

図 1　ことばへの気づきと言語教育（大津，2008）

昨今，翻訳は書き直し（‘a form of rewriting’）と定義し直されており（Bassnett, 2014: 3），人間が世界を概念化するのに必要なものと捉えられている（Brodzki, 2007）。したがって，ここでは「翻訳」という用語は逐語訳（‘word-for-word’ translation）ではなく，意味から意味への翻訳（‘sense-for-sense translation’）(Bassnett, 2014: 5) を意味し，訳す者（ここでは学習者）にある程度の自由を認める形で用いる。

文学以外のテクストの場合はテーマが比較的明示的で（‘explicit contextualization’）（Gajdusek, 1988: 230），論の展開が予想できるのに対して，文学テクストがときに厄介なのは何を伝えようとしているのかというテーマそのものをテクストを手掛かりに探らねばならないからである（Widdowson, 1983; Gajdusek, 1988）。このような文学テクストのうち，ここではアメリカの小説家 Ernest Hemingway（以下，ヘミングウェイ）による‘Cat in the Rain’（1925）を教材に選んだ。ヘミングウェイの小説は‘iceberg theory’と呼ばれる独特の文体で書かれており，登場人物や情景について，形容詞や副詞を用いて微に入り細に入り描かれていない。むしろ故意に特定の情報が語られない場合が多い。そのため，解釈が容易に一様に落ち着かない。なかでも‘Cat in the Rain’はト書きのように会話文が多く続き，結末も曖昧である。この小説をESLクラスで扱ったGajdusekは，文体はシンプルであるが，読者にことばを注意深く読み，読み進むなかで，その都度推測したことが妥当かどうか検討するよう強く求めてくる類のテクストだと述べている（Gajdusek, 1988）。

3．方法

本調査は，2016年度前期にＡ大学理工学部 2 年次生必修科目「リーディング」を履修する73名（4 クラス）を対象として実施した。半期を通して，彼らは英語で書かれた専門に関係する論説を読み，それに関する事実発問に解答するという演習，さらに論説のテーマに基づき英語でグループ討論を行なっていた。このセメスターにおける授業の流れのなか，短編小説‘Cat in the Rain’を用いた授業を13週目に実施することとした。教員はこの授業の 2 週間前にテクストと

それに準拠するワークシート（事前課題）[1]を与え，授業に備えさせた。実際の授業においては，おのおのの事前課題の解答に基づき，学生は日本語でグループ討論を行なった。

課題とした文学テクストは約1,150語の長さで，語彙については比較的平易である[2]。またテクストの半分近くが登場人物間の会話から成る。この会話に挿入されているイタリア語の文については，テクストの正確な理解を阻むことがないように，教員が注釈をつけた。さらに，理解に支障を来すと思われる語彙や表現についても別途Vocabulary Listを付した。

事前課題のワークシートには７つの質問を設定した（**表１**）。設問１では冒頭200語弱で描かれる風景を読み，頭のなかでイメージする風景を絵で表現させる。‘Cat in the Rain’では，主人公に当たるアメリカ人の妻，その夫をそれぞれ指示することばが意図的に随所で変えられており，小説を（しかも英語で）読み慣れていない者にはこれらの指示対象の理解がやや難解であると想定されたため，登場人物はアメリカ人夫婦，ホテルの支配人，メイドの４人であると示した上で，設問２では登場人物はそれぞれ英語でどのように指示されているか，本文から抜き出せと問うた。設問３は話の筋が理解できているかどうかの確認を目的とする[3]。設問４と５はそれぞれ物語の解釈の根幹に関わるテーマであり，夫婦仲は良好かを意味する「アメリカ人夫婦は幸せかどうか」をテクストから根拠を挙げた上で解答させる設問４，そしてアメリカ人の妻が欲しがった猫や最後にメイドが連れてきた猫など，いったい物語の中には何匹の猫が登場するのか数で答えさせたのが設問５である。設問６では‘Cat in the Rain’のテクストに付された番号①から⑫の発話を翻訳させる。ここで設問４および設問５で示される解釈との間に一貫性があるかどうかを見ることができる。‘Cat in the Rain’は，その解釈を読者にすべて委ねたような恰好で終わる。そこで，学生がこの物語を如何に解釈したかを知るために，物語の続きを考えさせる創作を最後の設問にした。同じく創作によって，夫婦仲や猫の問題についての学生の解釈が可視化される。

教員は以上の内容の事前課題を与え，それに沿って物語を読むように指示したが，ワークシートに記したこと以外は一切説明を与えなかった。したがって学生はこれまで習得した読解力を含む英語力を駆使して，課題に取り組むことになった。

表１　事前課題ワークシートの設問

課題内容		課題目的
設問１	絵	ことばからイメージへの変換
設問２	登場人物の一致	指示対象の正確な理解
設問３	物語の概要（話の筋）	物語の流れの正確な理解
設問４	夫婦の幸福	物語の解釈①
設問５	猫	物語の解釈②
設問６	会話の翻訳	主に物語の解釈①の反映（言語で表出）
設問７	創作	物語全体の解釈の反映（言語で表出）

1　以後，事前課題のワークシートの内容の詳細についてはAppendixを適宜参照のこと。

2　本論でヘミングウェイの‘Cat in the Rain’について言及した場合，テクストについてはAppendixを参照のこと。なお，実際のテクストでは段落分けはされていないが，事前課題のワークシートに掲載しているテクストでは授業での便宜上段落に分け，各段落の冒頭に[1]から[8]の番号をつけている。また設問６に関係する翻訳の箇所については同様に①から⑫の番号をつけている。のちの分析に関わるため，以下に‘Cat in the Rain’の話の筋を簡単に紹介しておきたい。イタリアのホテルに滞在しているアメリカ人夫婦は，雨のため出かけることもできない。夫はベッドの上で読書に耽っている。夕刻，妻は窓の外を眺め，雨を避けようとする‘kitty’を眼下に見つける。その猫を拾うために妻が外に出ると，ホテルの支配人の配慮で，メイドが傘を持って，彼女を追いかけてくる。しかし，猫はもうどこにもいなかった。部屋に戻った妻は，夫に向かって，続けざまに欲しいものを主張し始める。最初は相槌を打っていた夫も最後は‘shut up’ということばで妻のことばを遮る。ちょうどそこに‘a big tortoise-shell cat’を抱えたメイドが二人の部屋を訪れる。

3　設問３については，妻が猫を手に入れる過程を焦点化して，あらすじをまとめた学生は34名，猫をめぐって夫婦の関係にも言及した者は37名，猫の話に加えて妻と支配人の関係に言及した者は２名であった。

4．結果

ここでは上述の事前課題で与えた７つの設問すべてについて，その結果を示すわけではない。このうち，どの程度ことばに注意しているかを知ることのできる設問４，６に焦点を当てる。ただし，設問５については，次の「５．分析・考察」で一部取り上げ，論じる。

設問４の夫婦の幸福については，６割近くの学生が良好ではないと答えている。その理由として，「夫は読書に余念なく妻の言動に然程の関心を抱いていないから」(13名)，「妻はかまってもらえていないから（妻は不幸せ)」(11名)，「妻がわがままであるから（夫は不幸せ)」(６名)，「妻は夫から束縛を受けているから」(５名)，「夫は猫を欲しがっていないから」(３名)，その他「妻は物を得ることで幸せになれると思っているから」(１名)，「個々の望みは満たされているが，二人揃っての幸せは手に入れられていないから」(１名）を挙げている。

一方，良好であると解答した学生は全体の４割に当たる29名である。その理由として，「夫婦に遠慮のない会話があるから」(12名)，「ほとんど互いに対して不満がないから」(１名)，「妻のわがまま（○○が欲しいという望み）は幸福な生活を前提としているから」(２名)，「夫婦で旅をしているから」(３名)，「最後に猫が見つかった（手に入れられた）から」(７名)，「妻に対して夫が思いやりや気づかいを示しているから」(６名）を挙げている。

設問７に関しては，翻訳された文全体を見た上で，ことばに基づく解釈を知る手がかりとなる以下３箇所を取り上げ，紹介する：⑦“I want to have a kitty to sit on my lap and purr when I stroke her.”（以下，⑦‘kitty’）⑧“Yeah?” George said from the bed.（以下，⑧‘Yeah?’）⑩“Oh, shut up and get something to read,” George said. He was reading again.(以下⑩‘shut up’)。ただし，実際に学生が翻訳したのは，夫婦の発話部分のみである。

‘Cat in the Rain’では「猫」の解釈が鍵を握っているが，テクストでは‘cat’が使われたり，仔猫を意味する‘kitty’が用いられたりしている。それを踏まえ，‘kitty’ということばを含む⑦をどのように訳したのかに注目した。73名のうち約６割に当たる44名が‘kitty’と‘cat’のことばを区別し，「仔猫が欲しい」と訳していたが，37%に当たる27名は「猫が欲しい」と訳している。その他，「キティ」「ニャンコ」が各１名である。

⑧のポイントは‘Yeah?’という一語にある。短いことばではあるが，アメリカ人夫婦のホテルの室内での状況を頭に浮かべ，検討した上ではじめて，このことばとその前後の会話が噛み合う日本語が訳語として選び出されることになる。これについては，訳語にかなりのばらつきがあった。最も多かったのが「そうなんだ」(13名)，次いで「へぇ？」(８名)，「本当？」(７名)，「は？」(７名)，「ふうん」(６名）その他には「それで？」「はい？」(各３名)，さらに２名ないし１名の翻訳として「え？」「ええ？」「なんだって？」「どうしたん，急に？」などがあった。

⑩は‘shut up’に注目し，この部分を中心にどのように翻訳されているか，以下にまとめる。最も多かったのが「黙って（何か読んでて［よ］)」(23名)，次いで多かったものから順に「黙れ」(11名)，「少し静かにしてくれ」(６名)，「黙って（何か読め)」「黙ってくれ」(各５名)，「黙ってくれないかな」(３名)，「ああ，十分だ」「うるさいなぁ」「はぁ，静かにしてくれ」(各２)，「やめろ」(１名）であった。

5．分析・考察

5．1　夫婦の幸福についての解釈

一般に‘Cat in the Rain’を読んだ者は，アメリカ人夫婦の間に不協和音を感じとると思わ

れる。実際に今回の調査では，全体の58%に当たる42名の学生が夫婦は幸福とは言えないと答えている。このうち，13名が夫（ジョージ）の読書に注目し，それが妻への無関心を示すと理解している。夫の行動についての記述は，‘said’や‘asked’などの発話を意味する動詞を除いてほとんど読書のことばかりである（‘The husband went on reading…’[2]，‘George was on the bed, reading.’[5]，‘putting the book down.’[5]，‘resting his eyes from reading.’[5]，‘George was reading again.’[5]，‘He was reading again’[7]，‘He was reading his book.’[8]および‘He looked up from his book.’[8]）。次に多かった「妻はかまってもらえていないから（妻は不幸せ）」という理由も，おそらく夫の読書に起因していると思われる。妻にうんざりした夫が妻のことばを遮って読書に集中する様子に基づく理由である。

逆に夫の方が不幸せのために夫婦として幸福とは言えないと答えた6名は，妻のとりとめがないように聞こえる望みをわがままと解釈している。確かにそのような見方もあるが，妻の主張をたどり，妻がどのような暮らしを望んでいるのか検討していないため，一面的な解釈に陥っている。「妻は物を得ることで幸せになれると思っているから」を理由にした学生にも同じことが言える。

「妻が夫から束縛を受けているから」という理由も，妻はヘアスタイルすらままならぬため，夫に縛られているという一面的な解釈である。昨今社会問題になっている家庭内暴力の刷り込みによるものであろうか。しかし，ヘアスタイルを例にとっても，夫の妻への対応は高圧的なものでは決してなく，‘I like it the way it is.’[6]や‘You look pretty darn nice.’[6]のように感想を述べているにすぎない。ここで学生のうちに自らの経験や知識に拠る過度な読み込みが生じており，夫婦間の齟齬を示す会話が夫の妻への束縛という誤読につながっている。「夫は猫を欲しがっていないから」という理由については，夫自身が猫を探す行動を取っていないことが「猫を欲しがっていない」という結論に導いたのであろうが，猫を欲しがっているかどうかの記述はないため，論理に飛躍がある。

1名の学生の答えた理由「個々の望みは満たされているが，二人揃っての幸せは手に入れられていないから」は鋭い指摘かもしれない。確かにこの物語では夫婦が揃って行動する場面は描かれていない。冒頭，二人がホテルの廊下や階段を歩いているときという，この物語の核心となる出来事が起こっている時間外の行動を表わす文で，二人を指す‘they’[1]が使われているが，猫をめぐっての部分では二人の行動は終始別べつである。おそらくこれが根拠となっていると思われ，自分自身のことばで説明するところまで至っていないのが惜しいが，ことばへの注意があったと見てよいであろう。

一方，40%の学生が夫婦は幸福だと答えた。40%を多いと見るか否かはまた別の議論が必要になろうが，理由としてまず挙がったのが「夫婦間に遠慮のない会話があるから」というものであった。おそらく妻が自分の欲しいものを言いたい放題に口にしていることを「遠慮のない会話」と理解しているのであろう。しかし，妻の発言で注目すべきは語源をたどれば「欠落」の意味を持つ‘want’という動詞が執拗にくり返されていることであり，例えば[7]の⑨の妻の発言では動詞は‘want’しか使われていない（6回もくり返されている）。既婚の女性が子どものように同じことばをくり返すことに違和感を覚えず，ただ遠慮のないやりとりだと解釈するのは，テクストを根拠としているとは言い難い。「妻のわがまま（○○が欲しいという望み）は幸福な生活を前提としているから」という理由にも同様の問題がある。動詞‘want’のくり返しには気づき，それをわがままと解釈しているのは理解できるが，妻が何を欲しがっているのか検討していない。

次に挙げられた「妻に対して夫が思いやりや気づかいを示しているから」はある程度テクスト

を根拠にしたものと考えられる。確かに妻が子猫を探しに行くというときにも「雨にぬれないように」というようなことばをかけ，男の子のような短い髪の毛に不満を漏らす妻に「とても素敵だ」と妻を見つめながら答えるなど，夫のことばや行為には親切と思いやりがうかがえるからである。しかし，一方で夫が読書に余念ない様子をまったく斟酌していない。しかも夫は物語のはじめから終わりまでベッドから一歩も動いていない。妻に親切は申し出ても，実際ベッドから一歩も動かない夫に真の思いやりがあると理解してよいものか疑問が残る。

少数ではあるが，「夫婦で旅をしているから」という理由は，「旅」に対する一般的なイメージがそのままこの小説の読みに影響を与えていると思われる。夫婦揃って旅をすることは，仲が悪くてはまずありえないという，読者自身の経験や知識が読みの過程で機能している例である。このように読者がテクストに能動的に関わることは文学テクストゆえより一層可能になるのだが，そこには同時にその自己の経験や知識の投影が妥当かどうか，テクストにその根拠を求めて検証していく過程も必要である。自らの持つ旅のイメージを根拠に夫婦は幸せだと判断した学生はテクストに基づく検討を行っていない。

最も問題なのは「最後に猫が見つかった（手に入れられた）から」という理由である。これは設問 6 の翻訳で取り上げた⑦‘a kitty’とも関係する。妻が‘kitty’ということばを使っている時‘want’という動詞と組み合わせているように，妻は猫であればどのような猫でもよかったのかというと，決してそうではない。翻訳では44名（60%）の学生が‘kitty’を「仔猫」と訳しているが，このうち 5 名が「最後に猫が見つかった（手に入れられた）から」を夫婦の幸福の理由にしている。しかし，最後にメイドが連れてきた猫は‘a big tortoise-shell cat’（以下，三毛猫）である。

表 2 は「最後に猫が見つかった（手に入れられた）から」と答えた 7 名の答えた猫の数，‘kitty’の訳，そして設問 7 の創作の内容を示したものである。学生Ａは，この物語に登場した猫は 1 匹と答え，‘kitty’は仔猫と訳しているが，妻はいわゆる猫好きであるため，仔猫ではないが，メイドの持ってきた猫に妻は満足しているという解釈である。妻の仔猫へのこだわりは考慮に入れていない。学生Ｂは猫の数を 2 匹としているので，妻の欲しがった仔猫とメイドの持ってきた三毛猫は別ものと理解しているようである。学生Ａと同様に，妻が欲しがった猫はどのような猫かという読みとりはできていない。学生Ｃも学生Ａと同じように仔猫と訳しながら，猫の数は 1 匹であり，妻は三毛猫に満足していると考えている。学生Ｄは猫だけではなく，支配人の存在が妻の幸福な気持ちに関係していると解釈している。ここでは深く取り上げなかったが，支配人に対する妻の感情に恋愛を想像している解答がいくつか見られた。‘Cat in the Rain’の[3]において妻の支配人への感情を示す動詞‘liked’がくり返されているため，‘liked’を文字通りの恋愛と理解したようである。「妻の願いだった猫」をくれたのが恋愛感情を抱く支配人であったということで，仔猫ではなかったが，好きな人がくれた猫なので，この際問題ないというところであろうか。学生Ｅも仔猫と訳しながら，三毛猫をもらえたことが夫婦の幸福につながっていると考えている。学生Ｆ，Ｇについては猫の数，‘kitty’の訳について判断の基準になったことが見えにくい。7 名がどれくらい考えた結果なのかわからないが，設問が難しかったのかもしれない。

表２　「猫」の解釈

学生	猫の数	‘kitty’の訳	理　由	創　作
A	1	仔猫	最後に妻の大好きな猫をもらえるから	夫婦が仲睦まじく猫について語り合う
B	2	仔猫	最後に猫をもらえるから	創作不完全（一文）
C	1	仔猫	最後に三毛猫をもらえたから	創作不完全（一文）
D	2	仔猫	支配人が妻の願いだった猫を持ってきてくれ，（妻は支配人から）思われているから	妻は支配人の寄越した三毛猫に満足し，支配人に好意を感じる
E	2	仔猫	ホテルの支配人の計らいで，メイドが三毛猫を連れてきたから	猫が手に入り，皆幸せな気持ちになった
F	3	猫	最後に三毛猫をもらえたから	支配人の寄越した三毛猫を飼うが，すぐに飽きてしまう
G	1	キティ	最後に猫が見つかるから	見つかった猫がもう一匹別の猫を連れてきて，そのまま夫婦共ども幸せに暮らした

５．２　翻訳

物語のクライマックスに当たる夫婦のやり取りを翻訳させることは，この曖昧な結末の物語についての学生の解釈を知る手がかりになると考えた。なかでも，物語のタイトルにある‘Cat’ということばは表象として機能しており，妻が文字通りの「猫」（正確に言えば「仔猫」）を欲しいと思い，かつ「それ以上のもの」を欲しがっていることを意味している。そのため，テクストのなかで「猫」に関して‘cat’と‘kitty’の二つのことばが使われていることには重要な意味がある。このような解釈はさて置き，少なくともことばに注意していれば，‘cat’と‘kitty’は訳し分けられるはずである。しかし，実際は27名の学生が⑦‘kitty’を単に「猫」と訳していた。

⑧‘Yeah?’は，それまでヘアスタイルのことであれこれ話していた妻がいきなり猫が欲しいと言い出した直後の夫の反応である。妻が急に話題を変えたことを読みとることはまったく難しいことではない。短い一言であるため，学生の翻訳にはばらつきが見られたが，最も多かった「そうなんだ」（13名）はヘアスタイルから猫への話題の転換に夫が驚きもせず，猫を飼いたいという妻のことばに自然に応答しているという解釈である。次に多かった「へぇ？」（８名）は驚きを表わす応答であり，話題の転換に戸惑う夫を表現した翻訳と言える。「本当？」（７名）は急な話題の転換に戸惑うというよりも，妻の発言を一旦受け止めてから，その真意を問う応答である。「は？」（７名）は話題の転換への戸惑いとともに，驚きなど何らかの理由があり，相手の話した内容を再度確認するために聞き返す意味が込められている。「ふうん」（６名）は妻の発言の真意はさて置き，受け止めたことを意思表示する翻訳となっている。「へぇ？」「は？」は‘Yeah?’前の話題の転換に注意し，翻訳にそれが反映されており，評価できるものである。くわえて翻訳が読者による‘rewriting’であるとすれば，‘Yeah?’の一言に「どうしたん，急に？」という翻訳をした学生はこの会話の流れをよく理解していたと言えるであろう。

⑩‘shut up’ということばは相手の発言を遮る表現であり，かなり強い意味を持つ。しかしながら，全体の41%に当たる30名がこのことばの翻訳に比較的柔らかい響きを持つことばを選んでいる。しかも，このうち23名（76%）はこの夫婦は幸福ではないと答えている。夫婦関係がうまくいっておらず，幸福ではないとしながらも，これ以上妻のことばを聞きたくないために，夫が苛立って発する‘shut up’ということばの持つ「相手の発言を強く制する」という意味をつかみ損ねており，解釈に一貫性がない。

表３　⑩‘shut up’の翻訳文

語調の強弱	翻訳文 ＊ただし（　）内は，‘shut up’に続く英文の翻訳であり，‘shut up’の翻訳のニュアンスを説明すると考えられるため付記した	人数
強い	黙れ	11
	黙って（何か読め）	5
	やめろ	1
やや強い	静かにしてくれ	8
	黙ってくれ	5
比較的柔らかい	黙って（何か読んでて［よ］）	23
	黙ってくれないかな	3
	ああ，十分だ	2
	うるさいなぁ	2

５．３　総括

本論考の目的は，初等・中等教育から始まり６年以上にわたって教科としての英語学習を通して培われてきた大学生のことばへの意識を探り，その一端を示すことであった。そこで，通常の授業で用いられてきた教材テクストとは異なり，曖昧さを持ち，解釈をするためには行きつ戻りつしなければならない文学テクストを用いることにした。なかでも‘Cat in the Rain’を選んだ理由は同じ表現のくり返しがいくつか見られたからである。今回の調査では対象者の母語による読書量やそのジャンルによる差異を考慮しなかった。しかし，たとえ文学的な感性を持ち合わせていなかったとしても，これまでの英語教育のなかでことばに注意しながら読む習慣が身についていれば，同様にことばのくり返しには気づくはずである。また‘Cat in the Rain’は語彙や文の構造レベルではそれほど難解ではない上に，すでに述べたように英語力による理解の差が生じにくいように語彙の注釈を施している。実際に，設問３の結果から，73名の対象学生は物語の大まかな流れについて正しく理解していたと言える。

対象学生は，事実発問の課題に取りくみ，テクストのなかに答えを「探す」作業には慣れていた。しかし，今回使用した課題では，テクストから情報を探して解答させる問いは設問２「登場人物の一致」のみであった。それ以外はテクストの情報を基に，テクスト上には直接示されていない事柄を推論しながら，最後に自分自身の考えを述べる設問（推論発問）であった（田中•辻，2011）。慣れない形式の設問に学生は戸惑いを感じるのではないかと懸念されたが，ほぼすべての学生がすべての設問に解答していた[4]。しかし，設問４の夫婦の幸福についての解釈では，テクストに書かれたさまざまな情報を論理的に統合して解釈しようとする態度が消極的に思われた。テクストの部分的な情報にのみ依拠する一面的な解釈が多く見られた。また設問６の翻訳では，‘cat’と‘kitty’の区別に加え，‘shut up’という非常に強い意味を持つことばの理解においても，ことばを意識する傾向が見られなかった。日常的に大まかな意味をつかむ演習を行なっているため，ことばに立ち止まって，そのことばの持つ意味やニュアンスを検討する機会があまりなかったためであろう。

このような学生の抱える課題を解消するために，文学テクストとともに推論発問を積極的に課

4　73名中１名のみ設問４および設問７に解答がなかった。また別の１名については設問１に解答がなかった。したがって71名の学生はすべての設問に解答していた。

すことも一法だと考えた。そのため，今回の事前課題には推論発問ないしそれに近い発問を取り入れたが，この種の発問に慣れていない場合，解答における説明が不十分で，論理に飛躍が見られるものもあった。このことから，推論発問を与えるにしても，発問の方法に工夫が必要だと感じた。例えば，設問 4 では夫婦の幸福を問うたが，今回の学生の解答から見て，事実発問から始まり，二, 三の段階に分けて思考を促すように設問を設定することで，考えるきっかけを作ることができたのではないかと思われる。夫婦関係が良好とは言えないことは妻の‘want’のくり返しに察することができるので，まず「妻が欲しいと言っているものは何か」と事実発問を出してから，「妻の欲しいものから，妻はどのような暮らしを望んでいると思われるか」という推論発問を設定するなどである。ただ，設問を多く重ねることで生じる恐れがあるのは，設問が教員の考える「唯一正しい解釈」へ学生を誘導するものではないかという繊細な問題である。

この問題は，また文学テクストを扱う教員の心理にも関わる。入試問題でも避けられる傾向のある文学テクストは，唯一正しい答えを示すのが難しい場合が多い。しかし，教壇に立つ教員は，それが文学研究をルーツに持つ者であれ，文学研究とは関係のない者であれ，学生を前にした時，唯一正しい答えを示すことにこだわってはいないであろうか。その場合，これが正しい解釈であるという教員のこだわりが学生を誘導することがあってはいけない。また逆に唯一正しい解釈がこれであるという自信がないことが，教員に文学テクストを回避させることになってもいけない。文学テクストを教室に持ち込む際には，この種の問題が常に付きまとう。いずれにしても，文学テクストを用いる時，教員は唯一正しい答えを知っている存在であるという前提を放棄し，根拠のない誤読から学生を救い出すことはしても，学生が考え，答えることができるように導くだけで十分ではないだろうか。

今回学生には作者ヘミングウェイを含む‘Cat in the Rain’に関する一切の情報を与えず，‘Cat in the Rain’というタイトルすら伏せておいた。ここで終始「テクスト」と呼び続けているのは，この小説を一切のコンテクストから切り離し，テクスト，すなわち書かれたことばを根拠とした読みを学生に求めたかったからである[5]。文学が文化的な理解を促す役目を担っていることは先行研究で確認しているが，日本の英語教育の教室で文学テクストを導入するとした場合，現実問題として教員がそれについて知識を十全に備えているかというと必ずしもそうではない。文学を専門としない教員が扱える範疇を探ることも本研究の潜在的な目的としてあった。

文学テクストということで，自分の日常の知識や経験が反映された解釈があり，想像をめぐらせて読んだ痕跡も見られた。文学テクストは解釈の過程で読者の積極的な関与を促すことも先行研究で確認したが，この感情移入を根拠に基づく確証に変えるためには，実際の授業で行なったようなグループ討論を通して他者の視点から自分の考えを見つめ直す機会もまた別途必要であろう。

6．今後の課題

「われわれは日本語の本をさっと読み流してしまう。英語を母語とする研究者の読みも往々にしてそういうものだ」（佐々木，2017: 8）。このことばは研究者のような専門家だけに当てはまるものではない。母語ではない外国語を読むからこそ，なお一層一つ一つのことばを探り，注意

5　文学テクストを用いたリーディングの授業の構想には，文学的アプローチの一手法である‘New Criticism’が念頭にあった。これはテクストを中心にした考えで，作者を含めたあらゆる作品にまつわるコンテクストから作品を解放した形で論じる立場である（Malpas, 2013）。

する機会が得られるものを，ことばに注意を払うどころか，飛ばし読みで必要な情報だけ探すのでは，重要な学びの機会の一つを失ってしまうことになる。

英語教育におけるリーディング授業の目指すべきところはどこか――この議論が研究者の間で収束するのはおそらく容易ではないが，語彙と英文の構造が正しく理解されれば意味を取り違えることのない，内容が明示的なテクストを読むだけではなく，両義性・多義性に富む文学テクストをも含め多様なテクストに触れ，ことばに注意し考える習慣を身につける機会もまたこれからの教室における英語学習者には必要なことではないだろうか。

引用文献

大津由紀雄 (2008)『ことばの力を育む』慶應義塾大学出版会

佐々木徹 (2017)「今，日本で，英文学にどう取り組むか？」2-9.『教室の英文学』日本英文学会（関東支部）編　研究社

田中武夫・辻智生 (2015)「推論発問および評価発問を活用した英語リーディング指導の実践 ―高等学校における１年間の実践事例を通して―」『教育実践学研究』20, 159-171. http://edu. yamanashi. ac.jp/web_up_file/centerkenkyukiyou/edu_no20/pdf_data/no20_14.pdf（山梨大学）（アクセス 2017.9.30）

Bassnett S. (2014). *Translation*. London & New York: Routledge Taylor and Francis Group.

Brodzki, B. (2007). *Can these bones live? Translation, survival and cultural memory*. Stanford: Stanford University Press.

Frye, N. (1964). *The educated imagination*. Bloomington: Indiana University Press.

Gajdusek, L. (1998). Toward wider use of literature in ESL: Why and how. *TESOL Quarterly,* 22-2, 227-257.

Hemingway, E. (1925). Cat in the rain. In *In our time*. (1996) New York, Scribner.

Lazar, G. (1993). *Literature and language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.

Leech, G. (1973). *A Linguistic guide to English poetry*. London: Longman.

Leech, G. & Short, M. (2007). *Style in fiction: A linguistic introduction to English fictional prose*. 2nd. ed. Edinburgh Gate: Pearson Education Limited.

MacKay, S. (1982). Literature in the ESL classroom. *TESOL Quarterly,* 16 (4), 529-536.

Malpas, S. & Wake, P. (2013) 2nd. ed. *The Routledge companion to critical and cultural theory*. London and New York: Routledge Taylor and Francis Group.

Oster, J. (1989). Seeing with different eyes: Another view of literature in the ESL class. *TESOL Quarterly,* 23 (1). 85-103.

Preston, W. (1982). Poetry ideas in teaching literature and writing to foreign students. *TESOL Quarterly,* 16 (4). 489-502.

Rosenblatt, M. L. (1995). *Literature as exploration*. 5th. ed. New York: Modern Language Association.

Spitzer, L. (1948). Linguistics and literary history. Princeton, NJ, Princeton University Press.

Su, S.-W. (2010). Motivating and justifiable: Teaching western literature to EFL students at a university of science and technology. *Teaching English as a Second or Foreign Language*. 14 (1). Retrieved September 29, 2017, from http://www.tesl-ej.org/wordpress/issues/volume14/ej53/ej53a2/

Widdowson, H. G. (1983). Talking shop: H. G. Widdowson on literature and ELT. *ELT Journal,* 37 (1). 30-35.

Zyngier, S. & Fialho, O. (2010). Pedagogical stylistics, literary awareness and empowerment: a critical perspective. *Language and Literature* 19 (1). 13-33.

Appendix（事前課題としてのワークシート）

*なお‘Cat in the Rain’のテクストに付している番号[1]から[8]は実際のテクストにはない。これは，あくまでも授業で使用する際の便宜であり，しかもこのテクストそのものに段落分けも存在しない。

※多少わからない単語があってもあまり辞書をひかず，物語を楽しみ，想像しながら読んでください。Week 13の授業内でグループワークを行うため，ていねいに取り組むこと！

[1] There were only two Americans stopping at the hotel. They did not know any of the people they passed on the stairs on their way to and from their room. Their room was on the second floor [1]facing the sea. It also faced the public garden and the war monument. There were big palms and green benches in the public garden. In the good weather there was always an artist with his easel. Artists liked the way the palms grew and the bright colors of the hotels facing the gardens and the sea. Italians came from a long way off to look up at the war monument. It was made of bronze and [2]glistened in the rain. It was raining. The rain [3]dripped from the palm trees. Water stood in pools on the gravel paths. The sea broke in a long line in the rain and slipped back down the beach to come up and break again in a long line in the rain. The motor cars were gone from the [4]square by the war monument. Across the square in the doorway of the café a waiter stood looking out at the empty square.

[2] The American wife stood at the window looking out. Outside right under their window a cat was [5]crouched under one of the dripping green tables. The cat was trying to make herself so compact that she would not be dripped on.

“I’m going down and get that kitty,” the American wife said.

“I’ll do it,” her husband offered from the bed.

“No, I’ll get it. The poor kitty out trying to keep dry under a table.”

The husband went on reading, lying propped up with the two pillows at the foot of the bed.

“Don’t get wet,” he said.

[3] The wife went downstairs and the hotel owner stood up and bowed to her as she passed the office. His desk was at the far end of the office. He was an old man and very tall.

“[a]Il piove,” the wife said. She liked the hotel-keeper.

“[b]Si, Si, Signora, brutto tempo. It’s very bad weather.”

He stood behind his desk in the far end of the dim room. The wife liked him. She liked the [6]deadly serious way he received any complaints. She liked his dignity. She liked the way he wanted to serve her. She liked the way he felt about being a hotel-keeper. She liked his old, heavy face and big hands.

[4] Liking him she opened the door and looked out. It was raining harder. A man in a rubber cape was crossing the empty square to the café. The cat would be around to the right. Perhaps she could go along under the [7]eaves. As she stood in the doorway an umbrella opened behind her. It was the maid who looked after their room.

“You must not get wet,” she smiled, speaking Italian. Of course, the hotel-keeper had sent her.

With the maid holding the umbrella over her, she walked along the gravel path until she was

under their window. The table was there, washed bright green in the rain but the cat was gone. She was suddenly disappointed. The maid looked up at her.

"[c]Ha perduto qualque cosa, Signora?"

"There was a cat," said the American girl.

"A cat?"

"[d]Si, il gatto."

"A cat?" the maid laughed. "A cat in the rain?"

"Yes," she said, "under the table." Then, "Oh, I wanted it so much. I wanted a kitty."

When she talked English the maid's face tightened.

"Come,[e] Signora," she said. "We must get back inside. You will be wet."

"I suppose so," said the American girl.

[5] They went back along the gravel path and passed in the door. The maid stayed outside to close the umbrella. As the American girl passed the office, the [f]padrone bowed from his desk. Something felt very small and tight inside the girl. The padrone made her feel very small and at the same time really important. She had a momentary feeling of being[8]of supreme importance. She went on up the stairs. She opened the door of the room. George was on the bed, reading.

"Did you get the cat?" he asked, putting the book down.

"It was gone."

"Wonder where it went to," he said, resting his eyes from reading.

She sat down on the bed.

"I wanted it so much," she said. "I don't know why I wanted it so much. I wanted that poor kitty. It isn't any fun to be a poor kitty out in the rain."

George was reading again.

[6] She went over and sat in front of the mirror of the dressing table looking at herself with the hand glass. She [9]studied her [10]profile, first one side and then the other. Then she studied the back of her head and her neck.

① "Don't you think it would be a good idea if I let my hair [11]grow out?" she asked, looking at her profile again.

George looked up and saw the back of her neck, [12]clipped close like a boy's.

② "I like it the way it is."

③ "I get so tired of it," she said. ④ "I get so tired of looking like a boy."

George shifted his position in the bed. He hadn't [13]looked away from her since she started to speak.

⑤ "You look [14]pretty darn nice," he said.

[7] She laid the mirror down on the dresser and went over to the window and looked out. It was getting dark.

⑥ "I want to pull my hair back tight and smooth and make a big [15]knot at the back that I can feel," she said. ⑦ "I want to have a kitty to sit on my lap and [16]purr when I stroke her."

⑧ "Yeah?" George said from the bed.

⑨ “And I want to eat at a table with my own silver and I want candles. And I want it to be spring and I want to brush my hair out in front of a mirror and I want a kitty and I want some new clothes.”

⑩ “Oh, shut up and get something to read,” George said. He was reading again.

His wife was looking out of the window. It was quite dark now and still raining in the palm trees.

⑪ “Anyway, I want a cat,” she said, ⑫ “I want a cat. I want a cat now. If I can’t have long hair or any fun, I can have a cat.”

[8] George was not listening. He was reading his book. His wife looked out of the window where the light had come on in the square.

Someone knocked at the door.

“[g]Avanti,” George said. He looked up from his book.

In the doorway stood the maid. She held a big [17]tortoise-shell cat pressed tight against her and swung down against her body.

“Excuse me,” she said, “the padrone asked me to bring this for the Signora.”

Vocabulary List

	word[s]	definition
1	face (v)	～に面する
2	glisten (v)	きらきら輝く
3	drip (v)	したたる
4	square (n)	広場
5	crouch (v)	うずくまる
6	deadly (adv)	非常に
7	eaves (n)	ひさし
8	of supreme importance	非常に大切な
9	study (v)	よく見る
10	profile (n)	横顔
11	grow out	伸ばす
12	clip close	(髪を) 短く刈り込む
13	look away	視線をそらす
14	pretty darn nice	すごく素敵な
15	knot (n)	結び目（ここでは「おだんご髪」の意）
16	purr (v)	ごろごろのどを鳴らす
17	tortoise-shell cat	三毛猫

a ～ g は，イタリア語です。それぞれ以下の意味を参考にしてください。

a「雨が降っています」

b「はい，奥さま，嫌な天気ですね」

c「何か失くし物をされましたか，奥さま」

d「はい，猫」

e「奥さま」

f「オーナー，支配人」

g「どうぞ」

【事前課題ワークシート　内容】

解答はすべて解答用紙に日本語で書くこと。ほとんどの質問に「正解」はありませんから，自分の考えた答えを具体的に書いてください（具体的かどうか，ていねいに取り組んでいるかで評価します)。準備してきた解答をもとに，Week 13にグループでディスカッションを行いますので，事前に再度読み直しておいてください。

１．[1]の段落で描かれている情景を絵で表現してください。

２．主な登場人物は，アメリカ人夫と妻，ホテルの支配人とメイドの４人です。物語の中で，それぞれが英語でどう呼ばれているか抜き出してください（代名詞は除く)。解答は複数あります。

３．物語の概要を簡単に書いてください。

４．アメリカ人夫妻は幸せだと思いますか。なぜそう思うか理由も具体的に書いてください。

５．物語に登場する猫は何匹だと思いますか。

６．[6]～[7]段落：①～⑫の夫妻のセリフを状況に合った自然な日本語にしてください。夫妻になりきって，「セリフ」らしい日本語を考えてください。

７．最後まで物語を読み，[9]段落を自分で考えて書いてください。

付記

本稿は平成29年8月開催JACET International Conference（青山学院大学）において発表した「文学テクストを用いた思考力涵養型英語教育に関する予備調査」の原稿を加筆修正したものである。また本研究は，平成27年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究 (C)（一般)）として開始した研究課題「文学テクストを基盤としたthinking skills涵養型英語教育モデルの構築」に基づく.